

**平成28年度第6回「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」
「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨**

日時：平成29年2月2日（木） 午後6時30分～8時30分
会場：すみだリバーサイドホール イベントホール

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料№
(1) 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査の実施結果について	資料1 資料2
(2) 「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」公開保育の実施結果について	資料3
(3) 「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」合同発表会の開催について	資料4 資料5
(4) 小規模保育事業者の認可にあたっての意見聴取について	資料6
(5) 平成28・29年度保育施設今後の整備予定について	資料7

3 次回開催予定

4 閉会

配布資料

資料1	墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書（案）
資料2	平成28～29年度墨田区子ども・子育て会議等スケジュール（案）
資料3	「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」公開保育の実施結果について
資料4	「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」合同発表会の開催について
資料5	「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」合同発表会チラシ
資料6	小規模保育事業者の認可にあたっての意見聴取について
資料7	平成28・29年度保育施設今後の整備予定について

出席者(敬称略)

○委員

野原 健治（興望館館長）
西島 由美（にしじま小児科院長）
杉浦 浄澄（江東学園幼稚園副園長）
服部 榮（社会福祉法人雲柱社理事長）
佐瀬 一夫（中学校 PTA 連合会顧問）
内田 淳（青少年委員協議会委員）
根里 美佐（堅中地区青少年育成委員会委員長）
小菅 崇行（小菅株式会社代表取締役会長）
賀川 祐二（NPO 法人病児保育を作る会代表理事）
貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）
熱田 美帆（公募）
佐藤 摩耶子（公募）
莊司 美幸（公募）
近藤 ゆき江（八広幼稚園長）
島村 博（菊川小学校長）
松井 隆（寺島中学校長）
青塚 史子（八広保育園長）

<欠席委員>

大豆生田 啓友（玉川大学大学院教育学研究科教授）
高嶋 景子（田園調布学園大学大学院人間学研究科子ども人間学専攻教授）
長田 朋久（横川さくら保育園長）
高橋 朋宏（文花子育てひろば施設長）
押田 剛（主任児童委員）
相澤 しのぶ（立花吾嬬の森小学校 PTA 会長）
中村 信幸（連合墨田地区協議会議長）
新木 真理子（ひまわり保育園施設長）
本多 美絵子（両国幼稚園副園長）
小林 佳香（公募）
関 舞衣子（公募）
陳 晨（公募）

○部課長出席者

青木 剛（福祉保健部長）、石井 秀和（子ども・子育て支援担当部長）、浮田 康宏（子育て支援課長）、高橋 義之（待機児童対策担当副参事）、杉崎 和洋（子ども課長）、村田 里美（子育て支援総合センター館長）

○事務局出席者(検討チーム含む)

岩佐、岩崎、遠藤、戸村、酒井、土井

○事務局(株名豊)

糸魚川

○傍聴者

3名

開会

議題

(1) 墨田区子ども子育て支援ニーズ調査実施結果について

事務局	(資料1について説明)
コンサル	(資料1について説明)
副会長	事務局から説明をいただきました。十数点の指摘について修正をしたということです。委員のみなさまが気づいた点、またその説明で納得されたのかお聞きしたいと思います。調査については、無作為の抽出でデータとしては十分足りており、信頼に足るものだと最初におっしゃっていただきました。ご質問等はございませんか。
委員	13 ページの間 10 で、対象のお子さんが現在幼稚園や保育園などの「定期的な教育・保育事業」を利用していますか、とあります。それを見ていくと、年齢別に利用している人と利用していない人とあり、非常にわかりやすくなっていますが、その下に突然、「相談相手の有無別」というグラフが出てきます。これがあまりにも突然すぎて、わかりにくいのではないかと思います。もしここに入れるのであれば、何か少し説明を入れるとか、別のところに「相談相手はいますか」というところがあるので、そちらに移動した方がわかりやすいのではないかと思いますので、検討をお願いします。
副会長	検討いただくということでよろしいでしょうか。その他にはいかがでしょうか。
委員	21 ページの「1日あたりの利用時間」のところで、項目ごとのパーセンテージがそれほど差がありません。これは統計的にどうなのでしょう。人数を計算すると、数名しか違っていません。グラフは見ればわかるのですが、何が多いと書くと、その言葉に引きずられるのではないかと思います。実際のサンプリングの有意差というよりも、この中の差の有意差というのはどうなのかと思います。
副会長	有意差というのを、もう少しわかりやすくいっていただけますか。
委員	0.1%と 0.2%にどれくらい差があるかという話です。病気の発生率が、2倍になりましたというのと、1,000 人に1人が、1,000 人に2人になりましたというのは同じことです。書き方によって誘導されてしまいます。そのあたりも整理する必要があると思います。
副会長	それはどうしたらよいですか。
委員	「有意差がありました」とか「ありませんでした」などが一切書かれていないので、印象だけでこのパーセントが多いとか、数パーセントの差でもそこは無視してしまったり、「変わりませんでした」という表現になってしまっているのではないかと思います。グラフを出しているのであれば、そういった検討がなされていると思うのですが、そのことについて書かれた方がよいのではないのでしょうか。
コンサル	今おっしゃられたことは、その通りだと思います。グラフで数字を出しているところについては、集計しているのでこの通りですが、コメントをどう書くかによって誘導してしまう可能性があります。その中で、この報告書で配慮させていただいておりますのが、先ほどの有意差の標本誤差の5%というところで、全数にしたときに5%のずれで前後をしてしまう可能性があります。5%以内のものについては「高い」という表現をできる限りしない形でコメントを書かせていただいております。
委員	そうすると、この4.7%とか、5.3%、6.9%というのは、すべて有意差なしで終わってし

	まいりますよね。
事務局	今のご指摘について、「10～11 時間未満の割合が 8.3%と最も高くなっている」という表記に違和感があると思いますので、そこは削除した方がよいでしょうか。
委員	医学論文では、ここでは「差なし」で終わってしまいます。
事務局	他のところも、主だった違いが見られないところについては、特に「変化がない」といった表記もないので、ここも「変化がある」といった表記を削除するということで、修正をさせていただきたいと思います。そのような形で、事務局の方で取り扱わせていただきます。
副会長	今おっしゃられたことについては、事務局もその通りだと言われているので、削除するのがよいのか、それとももう少し別の表現にした方がよいのか、検討してください。
委員	「ときどき」という言葉と「まれに」という言葉についてですが、「まれに」の方が、頻度が低いと思うのですが、ここでは反対になっていますが、いかがでしょうか。
事務局	前回の報告書では、「まれに」「ときどき」という記載の順序が今回の表記の通りでしたので、前回の報告書に併せた形で書かせていただいております。
委員	「いつも感じる」「ときどき感じる」「まれに感じる」「まったく感じない」が正しい順番だと思います。前回調査の際、選択肢にマルをしたのか、それとも言葉で聞いたのかによって内容は違ってくると思います。言葉で聞いたら、言葉で反応します。ただ順番だけで見ているのであれば、端から何番目にマルをする可能性はあります。
事務局	この部分も改めて事務局で検討いたします。
副会長	報告書のデータ整理の仕方について質問が出ました。これについては、事務局に修正していただくということでよろしいでしょうか。なお、この報告書に関する話し合いは今回が最後となります。他にはよろしいでしょうか。
委員	自由意見やインタビューについては、そのまま載せるのでしょうか。
事務局	このまま載せます。今回の最終的な修正は、昨日までにご意見いただいた内容を反映しています。事務局としても、昨日までいただいたご意見の内容を確認、修正し、本日印刷したばかりですので、再度見直しをしなければいけないと思っております。我々ももう一度見直した上で、みなさまのご意見を踏まえて構成させていただき、最終的に出させていただきたいと思います。基本的には、今回この会議までのご意見が最後ということでお願いできればと思います。
委員	私は高校生のインタビューに行き、高校生のインタビュー調査結果の内容をじっくり見させていただきました。167 ページの「興味関心があること」で、「スマートフォン」「進路」「遊び」「ゲーム」、その下に「特になし（恋愛には興味がない）」と書いてありますが、そんなはずはないです。その発言をしたのは少人数だったと思います。このように書かれて配られてしまうと、今の高校生は恋愛にまったく興味がないのだと思われてしまいそうな気がします。
副会長	これは削除した方がよろしいでしょうか。
委員	記載の仕方だと思います。何人かは確かに言ったと思いますが、これが全部ではないので、これだけ書かれてしまうよりは、何か注釈をつけた方がよいと思います。
委員	聞いてきた人がそういうのであれば「少人数意見」とつけた方がよいです。
副会長	それが事実に近いですね。事務局で検討してください。

委員	一番上のところで、「学校が楽しい、楽しくない」と一緒にしてしまっています。これはよくわかりません。去年は楽しすぎて、今年が楽しくないのかなと思いました。この書き方だとわからないので、分けていただいた方がよいです。
委員	21 ページですが、「1日あたりの利用時間」のところで解説を見ると、「全体的に6時間以降で平均されています」とありますが、「6時間以上でばらつきがあります」の表現がよいと思います。
事務局	検討させていただきます。
委員	スケジュールについてですが、この議会報告というのはどれくらいの時間で、どれくらいの内容を報告されるものですか。
事務局	今回は、ニーズ調査 調査結果報告書を冊子にしたものを議会の委員会で報告します。区議会議員にお配りして、子育ての関係を所管している福祉保健委員会の中で報告させていただき、そこで議員さんにご意見をいただく形になります。議論の長さについては、当日の状況によりますが、一つの課題についてご意見が多いと長くなることもございますし、短い場合もありますので、時間はまちまちです。議会に出すということは、一般に公表させていただくので、その前提として議会に報告させていただくということで認識いただければと思います。
事務局	議会報告は3月の終わりと、9月にします。3月については、今回みなさまにお示しした通り、数字を見て思うことがあれば言ってくださいという形になると思います。今後数値の分析を進めていき、分析等を進めた結果と、事前にご意見いただいたものを精査してここで報告し、今後の方向性についてご議論いただくことになると思います。
副会長	調査結果について、分析等をして計画の中間の見直しに役立てるという整理でよいですね。4月以降、この中身を検討しながら事業の見直しも含めて行うということです。
委員	自由意見もとても参考になります。数値のデータとの関連はどのようなのですか。それもあると、もう少しわかりやすくなると思います。
副会長	いかがでしょうか。
事務局	グラフになっている数字の部分が主な報告になります。数字の客観的なところで、区民の方のニーズを把握するのが目的です。こういった数字で表せるところ以外は、抽出しきれない感覚の参考として自由意見として出しております。まず、この数字を見ていただきながら、最終の自由意見の欄を参考として、このような意見もあるということでご理解いただきたいと思います。
委員	スケジュールの確認です。前回、計画を作成した際は、国の指針の通りに計画をつくるのか、需要はどのようなのかといったことに精力を割いて、最終的に各事業の妥当性を考えていくことについては、時間が比較的とりにくかったです。来年度の会議で各事業の見直しや方針といったことが入っているので、100、200 ある事業について需要状況の動向や、あるいはこの調査から出る傾向などを併せて考えられるようになってくると思います。実際、そのような会議になっていくのか、それとも、今は事業がこうになっているが、こうしていく、といった議論が実際される場になるのでしょうか。
事務局	実質的な議論は、来年度前半の会議になると思いますが、そこで行ったものについて、パブリックコメントを踏まえて、また更に踏み込んだ形で会議を行おうと思っています。
副会長	策定のときは国のスケジュールを最重要視していたけれども、今回は調査を踏まえ、事業が

	追いついていけるのか、足らなくはないか、そのようなことについて時間をかけて観察することができるか、そのようにしていくつもりなのかということですね。
事務局	4月の会議では、課題を抽出する形で、計画という形では作れないと思います。5月の会議までには、素案を作ってみなさまにお示しします。その後も会議はありますが、今回行ったように、みなさま方にあらかじめお配りし、ご自宅でもご覧いただく時間があれば、そういったところでもご意見をいただけるように時間を作っていこうと思っております。みなさまのスケジュール的にも月に1回が妥当だと思っています。それ以外のところでもご意見をいただけるような形で進めさせていただきたいと思っています。
副会長	限られた時間ですが、工夫しながら内容にデータを生かすということで、ご協力いただきたいと思っています。その他、いかがでしょうか。よろしければ承認とさせていただきます。よろしいでしょうか。

(2)「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」公開保育の実施結果について

(3)「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」合同発表会の開催について

事務局	「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」公開保育の実施結果及び合同発表会については、関わっている委員の方々よりご報告いただく予定でしたが、関わっている委員の方々が本日欠席されていますので、事務局より紙面にてご報告、説明させていただきます。 (資料3～5について説明)
副会長	「子ども主体の協同的な学びプロジェクト」について、委員の方々はどうのようにご覧になっていますか。
委員	保育内容について学ぶことが多かったです。環境面や子どもの主体がどういったものなのかということについて、公開保育を見学した職員から報告がありました。今後も学んでいきたいという話は聞いており、とても影響があることだと思います。
委員	当園では、11月11日に公開保育を行いました。その後、言問幼稚園、水神保育園、木ノ下保育園が1月にそれぞれ公開保育を実施しました。八広幼稚園にもたくさんの方に来ていただき、実際にグループワークもして学び合う機会があり、大変参考になりました。木ノ下保育園には私も見学に伺わせていただきましたが、木ノ下保育園の先生は、やってよかった、とても勉強になった、とおっしゃっていました。2月7日には合同発表会前の最終の打ち合わせがあります。合同発表会は2月28日ですが、それに向けて準備を重ねているところです。
副会長	肯定的なご意見が多いようです。ほかにご感想、ご意見はございませんか。私は保育園の園長をしているのですが、保育園は非常に高い関心を持っています。やはり、幼稚園と保育園が一緒になって学びをするということに興味を持っています。
委員	気になっているのは、学校にこれがどのように繋がっていくのかということです。昨年の卒園児はどのように学校と繋がっていったのかなど、追跡調査があれば面白いと思います。
副会長	職員同士が、保育園と幼稚園でプレゼンを考えています。内容を協議しながら、その日の公開保育を行い、そしてその公開保育を通じて双方が学びます。今おっしゃっていたのは、それも一つだけれど、その後小学校に行くわけですから、その連携というところではどうなのかということですね。

委員	吾婦第2ブロックでは、幼保小中の会議のときに学校の1年生の話を聞くことはできます。ただ、どう繋がっているかという正直よく見えないところがあります。
副会長	そこで終わってしまうのではなく、その先まで繋がるとよいということですね。
委員	そうです。保育士の教育と保育の一体化と言われている中で、そこを繋げながらこの問題を取り上げられたらよいのかなと思います。
委員	本校は、幼稚園が併設されており、私は幼稚園長を兼ねております。私自身は4園の公開保育には参加できておりませんが、副園長や担任は参加しており、間接的には話を聞いております。本校は小学校と幼稚園が一つの建物の中にありますが、小学校を含めた全体というところでは浸透していないのが正直なところです。
副会長	このような動きがあるということが広がっていくとよいですね。
委員	先ほど話もありましたが、幼保小中それぞれのグループごとに様々な研究をしております。そういったところでも生かされていけばよいと感じております。
事務局	墨田区では、幼保小中連携の推進をしております。保育、教育活動については、小学校への接続を意識した様々なプログラムもありますが、結果的には様々なところに反映されるにしても、協同的な学びとしての切り口では、小学校への接続を第一に意識したものではありません。先生が組んだプログラムではなく、あくまでも、子どもたちがみんなでアイデアを出し合い、自主的な教育、保育、子どもたちの好奇心に応じたものを行っていくというものです。
副会長	関連のこととして、繋げていくことができれば、より良いものになると思います。それでは次に移ります。

(4) 小規模保育事業者の認可にあたっての意見聴取について

事務局	(資料6について説明)
副会長	小規模保育所も今はかなりの数になりました。その変化を確認しておく必要があると思います。この事業所認可については、児童福祉法に照らし合わせて認可を進めるということでしょうか。
委員	たくさんできるということでは、保護者の方も地域の方も喜ぶと思うのですが、保育士が足りないという話もよく聞きます。正規保育士募集という掲示を見ましたが、実際のニーズよりも少ないと思います。働く者の負担も大きいため、その点についても注意していく必要があると思います。
副会長	保育士の採用は大丈夫でしょうか。
事務局	まず事業者を選定するにあたり、保育士の確保ができるかというのは絶対条件になります。それは事前に必ず確認させていただいております。その上で、確実に人を持ってこられるかどうかは、実際に長い計画期間があるものと、これから担保しますという場合もあります。今回の事業所は他自治体で認証されていて、そこからも人を持ってこられるなど、事業者によって様々ですが、そういったことを確認した上で選定しています。そうは言いつても、実際に運営している保育園は大変な苦勞をされているという話もお聞きます。区としては、保育士確保のための支援策を強化しているところです。開園は決まっているが、保育士が集まらなかった。保育士はいるが、全体的に質が高くなかったということがないように、区としてもしっかり支援をしていきたいと思っております。

副会長	他にはよろしいでしょうか。
委員	現状の数字を聞きたいと思います。今、保育園の一次締切が終わったところだと思います。今現在の保育園の申込者数と、その数字が定員に対してどれくらいなのかということを教えてください。できれば年齢別ですべて教えていただきたいと思います。
副会長	今のご質問については、次の議題が保育の今後の整備についてとなっていますので、そこで併せて説明していただきます。

(5) 平成28・29年度保育施設今後の整備予定について

事務局	(資料7について説明)
副会長	補足説明はございませんか。認可保育所に移行すること、いろいろな事業所が運営しようとしています。社会福祉法人で言うと、墨田みどり保育園が小規模保育所をやろうということで、そのほか事業計画に沿って行います。それでは、小規模保育所の認可にあたって、ご了承ということでよろしいでしょうか。
事務局	先ほど、今年度の保育施設の申込者数と、募集数、それからその倍率、それから昨年との対比というお話をいただきました。クラス年齢ごとに申し上げます。まず申込者数は、12月16日で締め切りました第1次の申込終了時の数です。申込者数、0歳クラスに関しては660人、1歳児クラス843人、2歳児クラス387人、3歳児クラス223人、4歳児クラス68人、5歳児クラス10人です。合計で2,191人です。昨年の申込者数は2,058人でしたので、130人余り増えました。それから募集数に関しては、0歳児クラス463人、1歳児クラス478人、2歳児クラス201人、3歳児クラス133人、4歳児クラス55人、5歳児クラス36人、合計1,366人です。この募集数につきましては、退園などが出ますと募集数として加わってくるので、プラスの方向に数字が動く可能性があります。倍率ですが、0歳児クラス1.43倍、昨年は1.49倍でしたので、ほぼ同様な数字です。1歳児クラス1.76倍、昨年は1.79倍です。2歳児クラス1.93倍。昨年は1.71倍です。3歳児クラス1.68倍。昨年は1.79倍です。4歳児クラス1.23倍。昨年は1.32倍です。5歳児クラス0.28倍。昨年は1.5倍です。以上となりますが、ただ今、調整会議中でございます、結果につきましては、2月10日を予定しております。この日に、区から一斉に発送予定としております。早ければ、その翌日2月11日土曜日には結果をお届けできるかと思います。
委員	ありがとうございました。墨田区は比較的整備がされていて、入りやすいというように雑誌などにも書いてありましたが、どこの保育園に入るのも厳しいのかなというイメージはありました。倍率が下がっているところも多いので、それは墨田区が整備していただいた賜物だと感じます。ありがとうございます。
副会長	他にいかがでしょうか。
委員	先ほどのご説明の中で、新規に作られる保育園には園庭はないのでしょうか。子どもたちのためにということを考えて、保育園では公園争いのようなことがたくさん起こっています。難しいことですし、頑張っていらっしゃるのはよくわかります。先ほどの保育士さんの確保の話でも、行くたびに保育士さんが変わっていると聞くこともあり、大変だなと思います。保育士さんの質や保育の質に関して、区では開園した後、どのようにチェックをされるのでしょうか。
事務局	保育の質という部分について、開園後は認可保育園の指導監督チームがございますので、

	こちらが定期的に現場を周るなどして質の確保に努めております。園庭に関しては、先の説明のうち3園については園庭がございませんが、ほか2園、日生曳舟駅前ひびき、キッズガーデン墨田八広については、十分とは言えませんが園庭がある設計となっています。
副会長	園庭が保育園にとって必要だということで、その衛生管理のことも一緒に管理運営していただけるとよいです。また、保育士が集まらないとか、次から次へと変わってしまうのでは、質的な低下も起こるのではないかと思います。その辺も重要視していただきたいです。それでは、これらの事柄についても、ご承認いただいたということでよろしいでしょうか。 学童クラブ職員、それから児童館の職員の研修の場所が必要だということで、先日、第1回の事例研究を行いました。そういった動きがあるということもご理解いただければと思います。

次回開催予定

閉会

事務局	(次回開催について説明)
副会長	それでは、これをもちまして、今日の会議は終了いたします。ありがとうございました。

次回開催予定

日時：平成29年3月～4月 予定

以上